

『高齢者心不全を地域で支える』

のぞみハートクリニック 院長 岡田 健一郎 先生

岡田先生は医師免許取得後に大阪大学で「不全心における小胞体ストレスの役割」のテーマで医学博士の学位のを取得されました。循環器内科ならびに心臓リハビリテーションの専門医として大病院での勤務を経て、平成30年5月に新大阪駅近くに心不全の在宅医療を中心としたクリニックを開設されました。現在外来診療と約120人の在宅訪問診療を行っているそうです。岡田先生の取り組みに関してご講演されました。

冒頭では、在宅医療・介護にかかわる多職種チームについての説明をされました。この多職種チームは、病院でのチーム医療とは異なり、患者が在宅訪問診療導入となり、急速、招集となった即席チームであると。そのチームの構成員としては、訪問看護師が介在の役割を担う中、介護側としては患者に寄り添っている患者家族介護者の他にヘルパーやケアマネージャーが存在し、医療側としては在宅ケア医師・看護師・薬剤師に加えて岡田先生のクリニックではMSW(Medical Social Worker)、さらにはリハビリ理学療法士(PT/OT/ST)をスライドに挙げられていました。上記の在宅チームのメンバーは初対面であり、介護スタッフは医療に関して素人であり、医療スタッフは介護に関して素人であることが問題となることを指摘されました。問題点を洗い出してお互いに補って、協力していく事が重要であるとお話でした。

また、病診連携において退院前カンファレンスを行う目的についても解説をされていました。4つ挙げられた退院前カンファレンスの目的は以下となります。

- ① 患者さん・ご家族に安心して頂くこと。
- ② 在宅訪問診療に関わるスタッフ間の情報共有手段と連携方法の確認。
- ③ 退院後の療養環境の整備。
- ④ 顔の見える関係づくり。

ご講演の特記すべき事項としましては、岡田先生ご自身が循環器内科医であり心臓の専門家として大病院でのご経験をもとに、近年“心不全パンデミック”として激増が予想・懸念される心不全患者さんの在宅医療に特に積極的に取り組まれていることが紹介され、会場で聴講された皆様にとっても印象的であったかと思えます。さらに病診連携としての国立循環器病研究センターや大阪大学医学部附属病院との関係も強固であることを活かして、末期心不全でかつ在宅医療を望まれる患者さんにとって、(非常に大変でご苦労も多いかと思われましたが)在宅でカテコラミンの点滴を実施して、ポータブルの心エコー検査などを駆使した、きめ細やかな在宅医療が展開されていく姿に、息をのみ感動を覚えました。これからのますますのご発展を祈念いたしております。

(文責：福井県立病院 脳心臓血管センター 循環器内科 野路 善博)